

樣式1-1

大学等名	大手前大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- | | | |
|-----------------------------------|--|---------------------|
| ① 対象となる学部・学科名称 | ② 教育プログラムの修了要件 | 学部・学科によって、修了要件は相違する |
| 国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部、経営学部、健康栄養学部 | | |
| ③ 修了要件 | 「情報活用 I」1単位および「AI・データサイエンスの扉」2単位の合計3単位を取得すること。 | |

必要最低単位数 3 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

- ⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

- ⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

- ⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守るまでの留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンスの扉	2	○	○	○	○						
情報活用 I	1	○			○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容	
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する(「AI・データサイエンスの扉」第1回) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、Society 5.0、データ駆動型社会(「AI・データサイエンスの扉」第1回)
	1-6	・AI・データ利活用の最新動向を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・ニューラルネットワークと深層学習(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・画像認識に使用されるCNNとGAN(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・複数のデジタル技術の組み合わせによる取り組み(「AI・データサイエンスの扉」第7回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・我々の身の周りでは多種多様なデータが集められていること、そしてそれがどのように活用されているかを学習する(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・代表的なデータの分類(量的データ、質的データ、フローデータ、ストックデータ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・データとその取得方法(IoT、センサー、オープンデータ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・1次データ、2次データ、3次データ(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・ビッグデータの種類(構造化データ、非構造化データ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(「AI・データサイエンスの扉」第3回) ・Society 5.0社会で実現する技術(医療分野、交通分野、食品分野、エネルギー分野、防災分野)(「AI・データサイエンスの扉」第1回) ・企業におけるAI・データの利活用事例(「AI・データサイエンスの扉」第3回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものの	1-4	・我々の身の周りで使用されている技術の概要を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第4回) ・AI・データ活用のための技術(統計的手法、機械学習)(「AI・データサイエンスの扉」第4回) ・非構造化データ(音声・テキスト)の処理(「AI・データサイエンスの扉」第4回) ・非構造化データ(画像・動画)の処理(「AI・データサイエンスの扉」第4回)
	1-5	・AI・データを活用することによって生まれる価値について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第5回) ・データサイエンスのサイクル(PPDACサイクルとマーケティング)(「AI・データサイエンスの扉」第5回) ・AI・データ利活用の事例(スポーツ、物流、マーケティング)(「AI・データサイエンスの扉」第5回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	<ul style="list-style-type: none"> ・AI・データを活用する際の負の側面について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・GDPR(General Data Protection Regulation)(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・データ倫理、AIの倫理指針(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・AI・データサイエンスの倫理(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・情報の盗用、ねつ造・改ざん(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・プライバシー保護(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・情報セキュリティとモラル(「情報活用 I」第2回)
	<ul style="list-style-type: none"> ・データ、AI利活用に関する情報セキュリティの基礎として、セキュリティとリスクの関係性、情報のCIA等について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)(「AI・データサイエンスの扉」第13回、「情報活用 I」第2回) ・ハッキング、不正アクセス(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・コンピュータウイルス(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・個人情報保護法、匿名加工情報(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・認証の三要素(「AI・データサイエンスの扉」第14回) ・暗号化(共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式)(「AI・データサイエンスの扉」第14回) ・情報セキュリティとモラル(「情報活用 I」第2回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類を知り、連続データ、離散データ、量的データ、質的データについて学習する(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・データに含まれる誤差の取り扱い、統計情報の正しい理解について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・回帰、相関、因果(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・母集団と標本(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(「AI・データサイエンスの扉」第9回) ・データのはらつき(分散、標準偏差、変動係数)(「AI・データサイエンスの扉」第9回) ・5数要約と箱ひげ図(「AI・データサイエンスの扉」第9回)
	<ul style="list-style-type: none"> ・データの表現方法、不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの信頼性(「AI・データサイエンスの扉」第10回) ・記述統計と推測統計(「AI・データサイエンスの扉」第10回) ・統計データの抽出方法(単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出)(「AI・データサイエンスの扉」第10回) ・二つの質的データの関係(独立性検定、カイ2乗検定)(「AI・データサイエンスの扉」第10回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの集計(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの並び替え、ランキング(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・質的データの図表表現(名義尺度、順序尺度)(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・量的データの図表表現(間隔尺度、比例尺度)(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・不適切なデータの表現(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの取り扱い(txt形式、csv形式)に関する演習(「情報活用 I」第3回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

- ・具体的な例を交えて、AIやデータサイエンスの社会的役割とその活用について具体例を示して説明することができる。
- ・AIやおよびデータの利活用におけるする際に求められるモラルや倫理観の重要性を認識し、それらを向上させることができる。
- ・単純簡易なデータに対してついてはデータを統計的に集計や可視化を行うことができる。

樣式1-2

大学等名	大手前大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

国際看護学部

- ### ③ 修了要件

「情報活用Ⅰ」1単位および「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」1単位の合計2単位を取得すること。

④修了要件
「情報活用Ⅰ」1単位および「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」1単位の合計2単位を取得すること。

必要最低単位数

2 单位

履修必須の有無

~~令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施~~

- ④現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

- ⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

- ⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

- ⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容	
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル社会の概要(Society 5.0、ビックデータ、AI、IoT)（「情報活用Ⅰ」第1回） ・社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する（「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第1回）
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(ディープラーニング、強化学習)（「情報活用Ⅰ」第1回） ・医療・看護分野におけるAI活用事例（「情報活用Ⅰ」第1回）
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する統計(1次データ、2次データ、データのメタ化)（「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第1回） ・医療・看護分野における調査・実験データ（「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第1回）
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(医療・看護分野での活用事例)（「情報活用Ⅰ」第1回） ・医療・看護分野におけるデータの活用（「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第1回）
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化（「情報活用Ⅰ」第12回） ・非構造化データ処理(動画処理)（「情報活用Ⅰ」第14回） ・AI・データ活用のための技術(統計的手法、機械学習)（「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第1回）
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・看護分野におけるデータ・AI利活用事例紹介（「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第1回） ・データサイエンスのサイクル(データ解析と推論、結果の共有、課題解決に向けた提案)（「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第14回）

(4)活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上で留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> • ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)（「情報活用 I」第2回） • AIの倫理指針（「情報活用 I」第2回） • AI・データサイエンスの倫理（「情報活用 I」第2回） • データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護（「情報活用 I」第2回）
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> • 情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)（「情報活用 I」第2回） • 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介（「情報活用 I」第2回）
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> • 統計データの種類(連続、離散、量的、質的)（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第1回） • データの特徴(度数分布)（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第3回） • データのばらつき(分散、標準偏差、変動係数)（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第4回） • データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第5回） • 箱ひげ図（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第5回） • 母集団と標本（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第6回） • 回帰、相関、因果（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第7回）
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> • データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、円グラフ)（「情報活用 I」第12回） • 不適切なグラフ表現（「情報活用 I」第12回） • 基本統計量（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第4回）
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> • データの抽出方法（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第2回） • データ解析ツール(Excelの分析ツール)（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第3回、第4回） • データの集計（「情報活用 I」第9回） • データの並び替え（「情報活用 I」第9回） • データの取り扱い(txt形式、csv形式)に関する演習（「情報活用 I」第14回） • Excelを用いたデータの分析（「情報活用 II(含医療情報の統計学)」第7回、第8回）

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。
- AIやデータサイエンスの社会的役割とその活用について具体例を示して説明することができる。
 - AIおよびデータを利活用する際に求められるモラルや倫理観を向上することができる。
 - 簡易なデータについてはデータを統計的に集計、可視化することができる。

大手前大学 令和8年度シラバス(講義概要)

授業開講年度	2026		開講曜日・時限	未定
開講学期	未定		配当年次	1
授業科目名	AI・データサイエンスの扉			
担当教員名【代表】	伊勢 智彦			
担当教員名				
授業形態	講義			
授業方法	メディア授業(オンデマンド)			
単位数	2.0			
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)				
Knowing (知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】		知識・情報を活用する力【DP2】	
Doing (実践力)	国際感覚【DP3】		対人基礎力【DP4】	
	对自己基礎力【DP5】		対課題基礎力【DP6】	
Being (信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】		社会的責任【DP8】	
授業の目的	デジタル社会において、AI やデータサイエンスを日常生活、仕事で使いこなすことができる基礎的知識について学ぶ。学修した知識・技能をもとに自ら適切な判断ができる、各分野において AI やデータサイエンスの恩恵を享受し、その有用性を説明できるようになることが目標である。			
到達目標	① 現代社会において AI・データが果たす役割と Society5.0 との関係を説明できる。 ② データの種類を区別し、平均・分散・標準偏差などの統計的指標を用いて説明できる。 ③ データの可視化の適切性を判断し、優れた表現方法を実践できる。 ④ AI やデータ活用における ELSI(バイアス、説明責任、個人情報保護、GDPR など)の観点から、利活用上の留意事項を説明できる。 ⑤ AI・データサイエンスを活用する上での情報セキュリティやリスクマネジメントの基本を理解し、実生活に応用できる。			
授業概要	デジタル社会において AI やデータサイエンスが果たす役割を理解し、Society5.0 時代の基盤的素養を身につける。データの種類や統計的指標(平均・分散・標準偏差)を学び、適切な可視化方法を実践とともに、AI の利活用におけるバイアスや説明責任、個人情報保護などの ELSI 課題に触れる。実生活や社会での事例を通して、AI とデータを安全かつ有効に活用できる基盤知識を養成する。			
授業時間外学習	・課題レポートの内容の実施 ・シラバスの内容に関する予習			
授業回数	主題	概要	授業時間外学習 (学習内容・時間)	
1	イントロダクション 社会で起きている変化	授業概要の説明 社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AI を学ぶ意義を認識する	復習: 授業内容を振り返り、AI・データ学習の意義を自分の言葉でまとめる(30 分) 予習: 身近で感じる社会の変化や AI 活用事例を 3 つ調べてくる(60 分)	
2	社会で活用されている AI・データの概要	我々の身の周りでは多種多様なデータが集められていること、そしてそれがどのように活用されているかを学習する	復習: 授業で紹介された事例を整理し、ノートにまとめる(30 分) 予習: 新聞や Web ニュース	

			ースから AI 活用の記事を 1 つ探して要約する(60 分)
3	AI・データの活用領域	我々の身の周りの様々な領域でデータが活用されていることを学習する	復習：授業で扱った各分野の AI 活用例をまとめる(30 分) 予習：自分の興味ある分野における AI 事例を 1 つ調べる(60 分)
4	AI・データ活用のための技術	我々の身の周りで使用されている技術の概要を学習する	復習：授業で学んだ基礎技術（クラウド、IoT 等）のキーワード整理(30 分) 予習：技術解説記事を 1 つ読み、用語を簡単にまとめる(60 分)
5	AI・データ活用の現場	AI・データを活用することによって生まれる価値について学習する	復習：授業で示された現場事例を再確認し、自分の感想を記録する(30 分) 予習：AI を導入している企業の取組事例を調べる(60 分)
6	AI・データ活用の最新動向	AI・データ利活用の最新動向を学習する	復習：授業で紹介された最新動向を箇条書きで整理する(30 分) 予習：AI に関する最近のニュースを調べ、短く要約する(60 分)
7	前半のまとめ	社会における AI・データ利活用についてまとめる	復習：1～6 回の内容を復習し、重要なキーワードを自作の一覧にまとめる(30 分) 予習：理解が不十分な用語を調べ直し、整理する(60 分)
8	データを読む(1)	データの種類を知り、連続データ、離散データ、量的データ、質的データについて学習する	復習：授業で扱ったデータの種類をノートに図示してまとめる(30 分) 予習：身近なデータ（天気予報、スポーツ成績など）を例に分類してみる(60 分)
9	データを読む(2)	データに含まれる誤差の取り扱い統計情報の正しい理解について学習する	復習：授業で学んだ誤差や統計の考え方をまとめる(30 分) 予習：ニュース記事の統計データを 1 つ取り上げ、正しく理解できるか確認(60 分)
10	データを説明する	データの表現方法、不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する	復習：授業で扱ったデータの説明方法を整理する(30 分)

			予習：身近な統計データを選び、説明の仕方を考える(60分)
11	データを扱う	不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する	復習：授業で行ったデータ処理の手順を整理する(30分) 予習：簡単なデータ(例：売上やアンケート結果)を集めて整理する(60分)
12	AI・データを扱う 上での留意事項	AI・データを活用する際の負の側面、GDPR, ELSI等について学習する	復習：授業で学んだAI・データ利用に関する留意点をまとめる(30分) 予習：ニュース記事からAIの問題点や課題を探し、要約する(60分)
13	データを守る上での留意事項	データ、AI利活用に関する情報セキュリティの基礎として、セキュリティとリスクの関係性、情報の CIA 等について学習する	復習：授業で学んだ情報セキュリティや個人情報保護のポイントを整理する(30分) 予習：実際の情報漏洩事例を1つ調べ、原因と対策をまとめる(60分)
14	総合演習	AI・データサイエンスに関する総合演習を行い、知見を深める	復習：これまで学んだ内容を振り返り、演習に必要な知識を確認する(30分) 予習：演習課題に関連するテーマを整理し、準備を進める(60分)
15	AI・データサイエンスに関する総まとめ	これまで学んだ AI・データサイエンスに関して総まとめを行い、最終課題に取り組む	復習：授業全体を通して学んだ内容を自分の言葉でまとめる(30分) 予習：期末レポートに向けて重要ポイントを整理する(60分)
成績評価の基準と方法	この科目では、講義内容に関する毎回の確認テスト、中間課題、最終課題の結果を用いて総合的に評価する。 確認テストの合計: 50% 中間課題: 25% 期末課題: 25% である。 得点率が 60%以上を D, 70%以上を C, 80%以上を B, 90%以上を A とする。		
教科書	とくになし(教員が作成した資料を適宜配布する)		
参考図書	参考図書		
授業に関する質問等の方法	メールまたは研究室訪室により、事前調整のうえ、質問等に必要な時間を確保する。		
備考			

大手前大学 令和8年度シラバス(講義概要)

授業開講年度	2026	開講曜日・時限	未定
開講学期	春学期	配当年次	1
授業科目名	情報活用 I		
担当教員名【代表】	中崎修一		
担当教員名			
授業形態	演習		
授業方法	対面授業		
単位数	1.0		
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)			
Knowing (知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】	知識・情報を活用する力【DP2】	
Doing (実践力)	国際感覚【DP3】	対人基礎力【DP4】	
	对自己基礎力【DP5】	対課題基礎力【DP6】	
Being (信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】	社会的責任【DP8】	
授業の目的	本学の情報教育環境を理解し、学修に活用できるようになることが大きな目的である。また、実際にレポート作成やプレゼンテーションを想定した情報検索・整理・分析等の技術などについても習得を目指す。		
到達目標	大手前大学の情報教育環境の活用 情報リテラシー能力、データリテラシー能力の向上 Microsoft Word/Excel/PowerPoint の操作習得		
授業概要	本授業では、まず本学の情報教育環境と関連するクラウドサービス、コミュニケーション関連サービスの使い方について解説する。その中で、利用マナーや情報セキュリティについても学修する事で、安全な情報機器の活用を目指す。その後、レポート作成及びプレゼンテーション資料作成を想定し、実際に公開されているデータを活用した情報検索・整理・分析の手法について学修する。さらに、それらを文書やプレゼンテーション資料の形式にまとめ、活用する技術について学修する。そのまとめとして、応用課題に取り組む。最後に、知識の確認を目的とした確認試験を実施する。		
授業時間外学習	課題取り組み e ラーニングによる予習と復習 Microsoft Word/Excel/PowerPoint 動画教材		
授業回数	主題	概要	授業時間外学習 (学習内容・時間)
1	ガイダンス OCNET 利用案内 ファイル操作の基礎	授業の目的、成績評価方法を説明する。 大学生活における PC 及びネットワーク利用について理解し、PC 操作の基本であるファイル操作について、OneDrive も含めて学修する。	タッチタイピングに関する課題(60 分)
2	情報の検索 情報セキュリティとモラル コミュニケーション手段	様々なデータベースや公開情報、AI 検索を含めたインターネットを活用する情報検索について学修する。また、インターネット情報セキュリティと情報モラルについて学修する。さらに、電子メールと Microsoft Teams の使用方法についても理解する。	情報モラルに関する課題(60 分) ※提出必須課題
3	データ・リテラシー (1)	オープン・データを用いたデータ利用演習を行う。その中で、Microsoft Excel の利用について学修する。	表計算に関する課題(60 分)
4	表計算(1)	Microsoft Excel で様々な関数の利用を学修する。また、絶対参照についても理解する。	Microsoft Excel の関数利用に関する課題(60 分)

			(分)
5	表計算(2)	複数の課題に取り組み、Microsoft Excel の利用方法を身につける。	Microsoft Excel の関数利用に関する課題(60分)
6	データ・リテラシー(2)	入手したデータの分析、視覚化を行う。	データの視覚化に関する課題(60分)
7	文書作成(1)	Microsoft Word を利用したレポートの作成技術について学修する。	学修した機能に関する課題(60分)
8	文書作成(2)	レポート・論文作成に必要な Microsoft Word の機能を学修する。	学修した機能に関する課題(60分)
9	文書作成(3)	図表やグラフの取り扱いについて学修する。	図表やグラフに関する課題(60分)
10	プレゼンテーション作成(1)	Microsoft PowerPoint の基礎を学修する。	スライド作成に関する課題(60分)
11	プレゼンテーション作成(2)	Microsoft PowerPoint の装飾機能(アニメーションなど)を学修する。	スライド作成に関する課題(60分)
12	情報デザイン	情報の表現方法に関する知識について学修する。	情報の表現に関する課題(60分)
13	応用課題(1)	指定した課題に取り組む。	応用課題(60分) ※提出必須課題
14	応用課題(2)	指定課題について学生同士の相互評価を通じて成果物の問題点を理解する。	応用課題の振り返りに関する課題(60分)
15	確認試験、まとめ	学修内容を振り返り、確認試験に取り組む。	授業全体の振り返り(60分)

成績評価の基準と方法	<p>授業への取り組み姿勢と課題と試験から総合的に評価する。</p> <p>授業内の課題提出(24%)</p> <p>授業後の課題提出(56%)</p> <p>確認試験(20%)</p> <p>※授業欠席回数が5回に達した場合は、単位取得できないものとする。 (忌引き、公式試合参加、交通事情など考慮すべき事由のある場合は、担当教員に事前に報告の上、必要な書類等を提出すること)</p> <p>※「提出必須の課題」が未提出の場合は、単位取得できないものとする。</p>
教科書	イチからしっかり学ぶ！Office 基礎と情報モラル Office365・Office バージョンフリー 著者／制作 noa 出版 発行所 株式会社ワーカー・アカデミー ISBN 978-4-911200-06-3 価格 1,700 円(税込)
参考図書	未定
授業に関する質問等の方法	メールまたは研究室訪室により、事前調整のうえ、質問等に必要な時間を確保する。
備考	

2026(令和8年度)履修ガイド 該当ページ抜粋

I. 総合科目

国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部、経営学部、健康栄養学部

(I) ベーシック科目

本学で学ぶすべての学生が最低限身につける能力と、広く一般から認められる「就業力」を育成するための授業科目です。

授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性								
				必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8	
学びの道しるべA	演習	100	1~	(2)			国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部のみ必修※1	○					○	○		
学びの道しるべB	演習	100	1~	(2)				○					○	○		
アカデミックスキルズ	演習	100	1~	(2)				○	○							
未来への扉を拓く：自己発見とキャリア探求	演習	100	1~	(2)				○					○	○		
学びの道しるべC	演習	200	2~	(2)				○					○	○		
学びの道しるべD	演習	200	2~	(2)				○					○	○		
未来への道を築く：仕事理解とキャリア形成	演習	200	2~	(2)				○					○	○		
キャリアデザインⅠ	演習	100	1~	(2)			経営学部、健康栄養学部のみ必修※2	○	○				○	○		
キャリアデザインⅡ	演習	100	1~	(2)	「キャリアデザインⅠ」を修得していること			○	○				○	○		
キャリアデザインⅢ	演習	200	2~	(2)	「キャリアデザインⅡ」を修得していること			○	○				○	○		
キャリアデザインⅣ	演習	200	2~	(2)	「キャリアデザインⅢ」を修得していること			○	○				○	○		
哲学	講義	100	1~		2			○	○							
史学	講義	100	1~		2			○	○							
数学	e	講義	100	1~	2			○								

※1 「学びの道しるべA～D」「未来への扉を拓く：自己発見とキャリア探求」「未来への道を築く：仕事理解とキャリア形成」は、経営学部、健康栄養学部の学生は履修できない。

*2 「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」は、国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部の学生は履修できない。

(2) 外国語科目

英語をはじめとして、外国語コミュニケーションスキルを身につける授業科目で、基礎レベルの科目のみが設置されています。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語については、国際日本学部のコースの科目に統いており、それ以上のレベルの自主的な学修に対しては、各種技能審査（検定試験）における成果に基づいて単位を与えます。また、LEO科目とは、レベル別に英語で行う授業科目です。

授業科目名	授業形態	レベル ナンバー	配当 年次	単位	先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
				必修			1	2	3	4	5	6	7	8
英語Ⅰ	演習	100	I~	I		外国人留学生は修得不要	○							
英語Ⅱ	演習	100	I~	I	「英語Ⅰ」を修得していること			○						
ドイツ語Ⅰ	演習	100	I~	I				○						
ドイツ語Ⅱ	演習	100	I~	I	「ドイツ語Ⅰ」を修得していること			○						
フランス語Ⅰ	演習	100	I~	I				○						
フランス語Ⅱ	演習	100	I~	I	「フランス語Ⅰ」を修得していること			○						

(次のページに続く)

授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
				必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8
スペイン語Ⅰ	演習	100	I~		I			○							
スペイン語Ⅱ	演習	100	I~		I	「スペイン語Ⅰ」を修得していること		○							
中国語Ⅰ	演習	100	I~		I			○							
中国語Ⅱ	演習	100	I~		I	「中国語Ⅰ」を修得していること		○							
韓国語Ⅰ	演習	100	I~		I			○							
韓国語Ⅱ	演習	100	I~		I	「韓国語Ⅰ」を修得していること		○							
Beginner Listening Practice I	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Writing Practice I	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Grammar I	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Conversation I	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Reading I	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Listening Practice II	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Writing Practice II	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Grammar II	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Conversation II	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Beginner Reading II	演習	100	I~		I		LEO科目	○							
Academic English Studies I	演習	100	I~		I			○							
Academic English Studies II	演習	100	I~		I			○							

[外国人留学生のための日本語科目]

国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部および経営学部に所属する外国人留学生のみが履修をする科目です。

以下の科目の中から、必修を含めて6単位以上の修得が必要です。

授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
				必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8
日本語総合AⅠ	演習	100	I~	I				○							
日本語総合AⅡ	演習	100	I~	I				○							
日本語総合BⅠ	演習	100	I~	I				○							
日本語総合BⅡ	演習	100	I~	I				○							
日本語語彙・文法Ⅰ	演習	100	I~		I			○							
日本語語彙・文法Ⅱ	演習	100	I~		I			○							
日本語会話Ⅰ	演習	100	I~		I			○							
日本語会話Ⅱ	演習	100	I~		I			○							
日本語聴解Ⅰ	演習	100	I~		I			○							
日本語聴解Ⅱ	演習	100	I~		I			○							
応用日本語Ⅰ	演習	200	2~	I				○○							
応用日本語Ⅱ	演習	200	2~	I				○○							
Basic Japanese Conversation	演習	100	I~		I		交換留学生対象	○							

(3) 情報機器の活用とプレゼンテーション科目

社会に出るために必要な情報機器の操作とこれからのデジタル化社会に対応するための授業科目です。

授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
				必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8
情報活用 I	演習	100	I~	I				○	○						
情報活用 II	演習	100	I~		I			○	○						
表計算演習	演習	200	2~		2			○	○						
A I・データサイエンスの扉 オ	講義	100	I~		2			○	○						
教養としてのA I・データ活用 オ	講義	200	2~		2	「情報活用 I」「A I・データサイエンスの扉」を修得していること		○	○						
教養としてのA I・データ活用 (実践演習)	演習	200	2~		2	「情報活用 I」「A I・データサイエンスの扉」を修得していること		○	○						

(4) スポーツ・健康科目

講義科目である「保健体育」とスポーツ実技を中心とする授業科目があります。特に後者は、競技や体力増強を図るための科目だけでなく、心身をリフレッシュする科目や、運動が苦手な学生のための科目も設置されています。

授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
				必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8
保健体育	講義	100	I~		2			○	○						
バレーボール	実技	100	I~		I			○	○						
バスケットボール	実技	100	I~		I			○	○						
バドミントン	実技	100	I~		I			○	○						
軽スポーツ	実技	100	I~		I			○	○						
レクリエーション&スポーツ	実技	100	I~		I			○	○						
フィットネス&スポーツ	実技	100	I~		I			○	○						
コミュニケーション・スポーツ	実技	100	I~		I			○	○						
ヨガ&ピラティス実習	実技	100	I~		I			○	○						
健康ボディケア実習	実技	100	I~		I			○	○						
ボディワーク&コミュニケーション実習	実技	100	I~		I			○	○						

(5) キャリアアップ科目

将来の進路を意識し、社会に出るために必要な知識や、就業力をより高めるための体験をともなう授業科目です。
選抜された学生だけが履修できる科目もあります。

授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
				必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8
ファシリテーター養成演習	複 演習	100 ~ 200	1・2~		4			○	○	○	○	○	○	○	○
Global Career Seminar A	演習	100	1~		2			○		○	○	○			
Global Career Seminar B	演習	200	1~		2			○		○	○	○			
Global Career Seminar C	演習	200	2~		2			○		○	○	○			
Global Career Seminar D	演習	300	2~		2			○		○	○	○			
留学生ためのビジネスマナー・作文	演習	300	2~		2		国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部、経営学部の外国人留学生等対象	○	○						
地域貢献PBL	複 演習	200	2~		2			○	○		○	○	○		○
Internship (GJS)	演習	200	1~		2		交換留学生対象		○	○	○	○			
Community Development PBL (GJS)	演習	200	1~		2		交換留学生対象		○	○	○	○			
働くことへのアプローチ	講義	200	2~		2			○	○				○	○	
就業体験のデザインと実践	複 演習	200	2~		2			○	○				○	○	
サービスラーニング	演習	300	2~		2					○	○	○	○		
職業選択演習	複 演習	300	3~		2				○		○	○	○	○	
職業選択演習 応用	演習	300	3~		2	「職業選択演習」の単位を修得していること		○		○	○	○	○		
社会連携演習【医療】	演習	300	3~		2		健康栄養学部対象	○		○	○	○	○		
社会連携演習【食品】	演習	300	3~		2		健康栄養学部対象	○							
社会連携演習【健康】	演習	300	3~		2		健康栄養学部対象	○		○	○	○			

国際看護学部

(I) 基礎分野

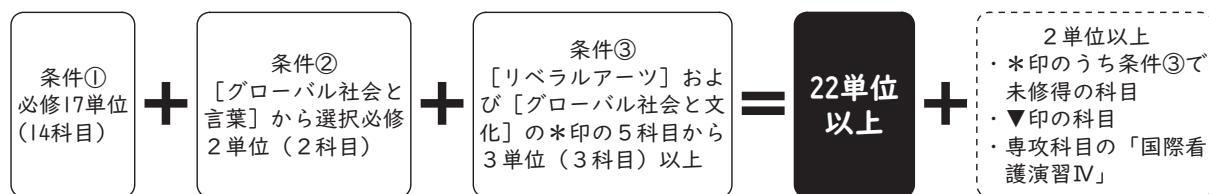
多様な人々の価値観や文化の違いを受容し行動するグローバル人材として国際化する社会で活躍するための基盤的能力を身に付けるための授業科目です。

具体的には、以下の科目を開講します。

- ・必要な情報を自ら収集し、ものごとの本質について深く考える能力を身に付ける科目
- ・自分の考えを外国語を含む言葉で表現する資質を養う科目
- ・医療・健康・病気を国家や民族における文化の多様性や、地域に暮らす人々の多様性に着目して学ぶ科目
- ・看護学・医学の基礎知識を学ぶために必要となる化学や生物学について学ぶ科目
- ・情報機器の基本操作や看護研究に必要となる統計の知識を学ぶ科目
- ・自身の健康を維持するために必要なストレスコーピングや身体のケアについて学ぶ科目

総合科目からは、条件①～③を満たし22単位以上を修得する必要があります。

なお、卒業要件の124単位を満たすためには、22単位に加えて総合科目と専攻科目的選択科目から2単位以上修得する必要があります（下記点線枠を参照）。



科目区分	授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
					必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8
リベラルアーツ	キャリアプランニング I	演習	100	1~	1				○	○						○
	キャリアプランニング II	演習	200	2~	1				○	○						○ ○
	生命・医療倫理	講義	100	1~	1				○							
	哲学入門	講義	100	1~		1		*	○							
	法学の基礎	講義	100	1~		1		*	○							
	国際社会学	講義	400	4~		1		*	○ ○							
グローバル社会と言葉	Practical English I for Nurses	演習	100	1~	1				○ ○							
	Practical English II for Nurses	演習	100	1~	1				○ ○							
	Academic Writing & Debate	演習	300	3~	1				○ ○							
	Student-friendly English for nursing	演習	100	1~		1		▼	○ ○							
	English for healthcare careers	演習	200	2~		1		▼	○ ○							
	看護のための中国語	演習	100	1~		1		} 1科目選択必修	○ ○							
	看護のための韓国語	演習	100	1~		1			○ ○							
	Basic Communication in Global Context	演習	200	2~		1		} 1科目選択必修	○ ○							
	Listening & Speaking in a Global Society	演習	200	2~		1			○ ○							
社会口と文化	大阪・神戸における多様な共生社会と文化	講義	100	1~	1				○							
	医療人類学	講義	100	1~	2				○							
	情報倫理	講義	100	1~		1		*	○							
	国際政治・経済	講義	100	1~		1		*	○							

(次のページに続く)

科目区分	授業科目名	授業形態	レベルナンバー	配当年次	単位		先修条件	備考	ディプロマ・ポリシーとの関連性							
					必修	選択			1	2	3	4	5	6	7	8
科学と情報	化学・生化学	講義	100	I~	2	□			○							
	生物学・細胞生物学	講義	100	I~	2				○							
	情報活用 I	演習	100	I~	I				○ ○							
	情報活用 II（含医療情報の統計学）	演習	100	I~	I				○ ○							
	A I・データサイエンスの扉	オ	講義	100	I~	2		▼	○							
	教養としてのA I・データ活用	オ	講義	200	2~	2	「情報活用 I」「A I・データサイエンスの扉」の単位を修得していること。	▼	○ ○							
セスルボフリケツアヒ	教養としてのA I・データ活用 (実践演習)	演習	200	2~		2	「情報活用 I」「A I・データサイエンスの扉」の単位を修得していること。	▼	○ ○							
	スポーツ生理学	実技 講義	100	I~	I				○ ○							
	スポーツと健康	講義 実技	100	I~	I				○ ○							
必要単位数					22											

□「急性看護学実習」「慢性看護学実習」の先修条件の科目となる。

大手前大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

| プログラムのねらい

社会のニーズに応え、統計的な考え方やデータの読み解き方、さらには人工知能をはじめとする先端デジタル技術を活用する力など、デジタルリテラシーを身につけた人材を育成する。

| プログラムの学修成果

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

| プログラム（リテラシーレベル）の修了要件

<全学部>

（国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部、経営学部、健康栄養学部、国際看護学部）

- 「AI・データサイエンスの扉」「情報活用Ⅰ」をすべて修得すること。

| 組織・体制

役割	機関
プログラムの運営・改善	教務委員会
プログラムの自己点検・評価	自己点検・評価委員会

| 学びのステップ

発展

Develop スキルを実践に活用する

各々の専門領域の研究や学修においてAIやデータの利活用を試みる

応用

How 利活用スキルを身につける

「教養としてのAI・データ活用」
「教養としてのAI・データ活用（実践演習）」
「情報活用Ⅱ」
「情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）」

基礎

Why・What 基礎知識を身につける

「AI・データサイエンスの扉」
「情報活用Ⅰ」